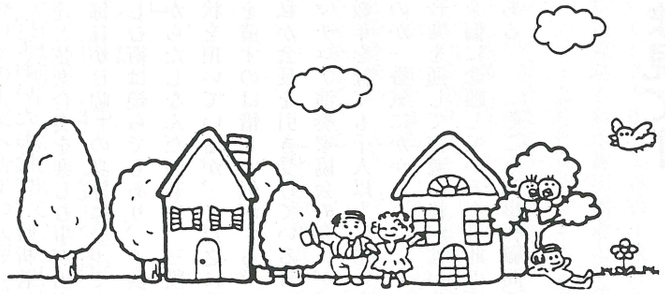
のようでした。

大北電信退職のあと、戦時中は貿易統制会関係に、戦後はベルギー人経営の貿易商社に勤め、昭和三十五年頃まで働いたあと、しばしば鈴木時代を回想いつつ、商社の私的年金制度で余年を送りました。

鈴木商店については、例の焼討ち事件や倒産などについて、多くの経済門書は、悪意に充ちた記述でもなく、しかしまた非常に好意的な見方でもなく、あいまいな評価に終わっている例が多いようですが、城山三郎氏や桂芳男教授などのご努力により、かなり真相が解明されたことは、誠に慶ばしいことであり、これらの方々のご努力に感謝するとともに、直接鈴木商店に関係された方々にも現在尚かなり多数ご健在でいられることは何よりで、既に『たつみ』誌にもかなり執筆されているようですが、高畑様が昭和四十七年十月十五日から十一月九日までの間、二十六回にわたり、日経新聞の「私の履歴書」に書かれた内容を更に補完する意味で、今後とも当時を回顧して健康を揮われることを、期待してやみません。

そしてそのためにも、この辰巳会のますますご発展を心からお祈り申し上げます。



平成5年全国大会の御案内

―金子直吉翁50年祭祝いについて―

来年（平成５年）は、直吉翁が亡くなられて50年にあたり辰巳会といたしましては、全国大会において、金子翁の80年祭祝を左記の通り取り行なう企画準備中でございますので、皆様多数のご参加をお待ち申し上げます。

本部幹事一同

記

と　き　　平成５年５月20日㈭

ところ　　神戸「長田神社」
　　神戸市長田区長田町３丁目１－１

辰巳だより会

本部新年例会報告

平成四年一月十四日(火)

本年も中国料理の東明閣へ、寒さにめげず三十七名の出席者があった。

正午、藤田幹事の懐かしい第一声が、マイクを通し場内に響いた。

即ち司会である。

開会の辞は五十嵐幹事長が若々しくされ、新年の挨拶を鈴木会長が元気よくなされた。次いで会務報告は松下幹事が本年の米寿、喜寿を迎えられる方を紹介、又昨年秋季例会以降の物故者を報告し、一分間の黙禱を捧げ終了した。

直ちに宴に入り、九十四才の山田作之助翁の目出度い音頭により乾杯祝賀会は始まった　その間、故高畑誠一会長の筆になる真紅の大盃になみなみと注がれた新酒を廻し呑みされた。

ご馳走もあり加えるに久しい振りの歓談が何よりの喜びであり、出席出来る健康とあわせて、有難い平和日本に感謝すべきか！

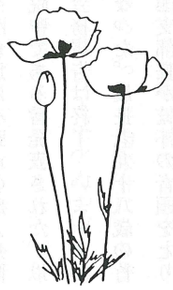
米寿を迎えられ矍鑠としてご活躍の室谷山水氏のスピーチは誠に有意義なものであった努力あり、且運を摑む事が必要だ。

談つきるところなし、充足感と言う状態であったが、健康、事故等々を考慮して、閉会すべく、高畑幹事の『辰巳会万歳』を最後に解散となり、それぞれ次回の再会を約し、東明閣をあとに街に消えて行った。

とき二時三十分過ぎであった。

以上

松下　記



平成三年　新年例会出席者名簿

平成四年一月十四日(火)　於・東明閣

阿部　孫治		原　彊	
五十嵐　文子		坂東　トシ	
井上　好正	集	平高　みどり	
奥田　さき		西内　義子	
小野　晶子		福沢　富美子	
金子　貞子		藤田　有一	
東条　賢		堀内　健作	
北尾　素子		宏展	
山本　富美子		松下　久代	
城戸　喜夫		室谷　重男	
窪田　圭子		山水　好子	
小林　俊夫		森田　作之助	
鈴木　治雄		横田　周作	
鈴木　孝子		よしこ	
須藤　欽吾		金子　裕	
高畑　ちよ		以上	
高畑　薫幸			
千頭　喜代子			
元一			
	計三十六名		

全国大会報告

平成四年五月二十日㈬

於・京都ブライトンホテル

今大会は恒例となっていた開催場所を京都に決め、余り欲張ったコースも設定せず自由で楽な会合をと相談し実行の運びとなった。

会場のホテルは都心にあっては一寸辺鄙な場所であったが一九八八年オープンで鈴木会長も時々利用されており、立派な落ち着いたものであった。

前夜から宿泊された方もあり、正午から開会となった。

今回も東京・名古屋・四国・九州と各方面から五十五名の出席があった。

残念ながら皆勤であった北海道函館の加地氏がご欠席で来年は是非にと願っています。藤田幹事の司会により、五十嵐幹事長が元気よく開会を宣し、鈴木会長が一年ぶりの挨拶の辞と、ともに健康で再会出来た感謝の意を述べられた。

又来年の大会を約された万雷の拍手のうちに終了。

次に松下幹事の会務報告となった。

昨秋の叙勲で日商岩井㈱御出身の近藤鳩三氏が勲三等瑞宝章受賞の旨発表、拍手をもってお祝をした。

次に本年の米寿・喜寿の方々の氏名を披露、又訃報(別項)を発表。
右物故者については、去る六日祥龍寺に於て会長以下幹事一同参集、過去帳に記入合祀、供養を旨報告された。
茲において、あらためてご冥福を祈念して全員一分間の黙禱を捧げた。
次に永年にわたりご尽力された柳田・小倉・野原各幹事の近況について報告があった。
柳田・野原両氏はいずれも自宅療養、小倉氏は小野市の成人病院に入院中である旨発表された。以上で会務報告は終了、いよいよ宴会となった。最長老九十八歳の竹崎四国支部長が乾杯の音頭をとり中華料理に舌鼓をうち楽しい歓談の一時を過ごすことが出来た。
宴半ば、植田東京支部長のスピーチがあり又初参加の故木村喜之助氏のご令息毅氏(西南学院大学名誉教授)の挨拶がありました。
箸の動きもやや鈍くなり、頃はよしと高畑幹事による閉会の万歳三唱で大会は無事終わった。とき一時三十分頃であった。
右により一応の解散となり時間の許される方々は、二条城へ案内する事となりタクシーに分乗移動した。
二条城は、流石に徳川家の京都屋敷であり桃山時代の書院造り、狩野派の巨匠達が腕をふるった障壁画あり、いつ見ても圧巻である。外人客多く京都観光の代表の一つである。
天候にも恵まれ事故なく見学も終わり解散出来、やれやれと安堵したのは三時過ぎであったか！
又来年お元気で大会にご出席お待ち申し上げます。

平成四年全国大会出席者名簿
平成四年五月二十日(水)
於・京都ブライトンホテル

阿部　孫治
　　　文子
安東　浄
　　　恒子
五十嵐　集
井上　好正
今村　三郎
植田　三男
小野　晶子
小野　多喜子
釜崎　とし子
大谷　淳子
奥田　さき

金子　貞子
　　　雅子
北野　浅美
北尾　素子
山本　富美子
木下　清三郎
木村　毅
小林　俊夫
末次　英一
　　　籌子
鈴木　治雄
田中　清
田中　卓次

高畑　君枝
　　　千代子
高畑　薫幸
　　　喜代
竹崎　浅吉
田代　よし子
千頭　元一
柘植　五百刀
柘山　寿郎
西川　明子
西村　銕次郎
花井　嘉夫
　　　芳枝
福沢　有一
藤田　健作
真玉　修一
松木　三四郎

松下　重男
松原　和雄
森　好子
柳田　直子
山本　せい
山本　秀子
河野　芳子
横田　周作
　　　よしこ
吉田　春江
　　　雅子
鷲尾　千鶴子
金子　裕
計　五十四

東京支部新年例会

平成四年新年例会を一月二十三日(木)正午より築地のスエヒロで開催しました。定刻、皆さんのお顔が揃ったところで一同記念撮影し、そのあと芦原幹事の司会で会を始めました。
植田支部長から開会と新年のご挨拶があり〝皆さん今年もご健勝でお過ごし下さい〟とお言葉があった。
つづいて日商岩井㈱社長の辰巳会哲様から鈴木商店ゆかりの辰巳会会員の皆様に対し心のこもった感謝の言葉と共に会員の益々のご健康とご多幸を祈りますとの丁重なご挨拶を頂戴しました。
このあと平成三年の物故者十八名の方々に全員で黙禱を捧げご冥福を祈りました。
次いで米寿、喜寿の方々は(敬称略)、田中清、国広五郎、小倉五郎、加地彦太郎、西村銕次郎、上野金治、室谷山水、山口義雄、諸川耿、藤田健作、芦原有一の三名の方は喜寿を、それぞれめでたくお迎えなされましたことを皆様にご披露申上げ、ご長寿をお慶びしました。
つづいて柘山寿郎様のご挨拶と発声で乾杯をして宴会に入りまし

た。久方振の顔合わせとあって皆様歓談の花が咲き、美味しい料理にビールとお酒が入って話がはずみ、それこそ時のたつのも忘れるほどでした。
頃合いを見て米寿を迎えられた国広五郎様に長寿者を代表してご挨拶をお願いし、間をおいて、安東幹事から次のお二人に、今日迄ご健康で長寿を迎えられた秘訣というか、奥の手のスピーチをお願いしました。
国広様には今の感興と長寿にする心得を、そして久しぶりにお顔を見せられた、宗眞足様には九十四才の長寿秘訣を、それぞれお話をしていただきました。貴重な体験談を聞かせていただき、宴席の皆様はその奇抜な要点に微笑みながら頷いておられました。
このあとしばし楽しいお喋りが続きましたが、そろそろ時間もまいりましたので、西村銕次郎幹事から閉会の挨拶をしていただき、そのお話のなかで〝私は辰巳会に出席するのを一番の楽しみにしています、それは私が平均年令以下だからです、今回からやっと平均年令になりました。〟と、ユーモアたっぷりのお話で皆さんを笑わせました。午後二時頃とどこおりなく楽しい新年例会を終えお開きとなりました。
帰りしなに皆様に沢山なお土産の入った手提げ袋をお渡ししました。これらのお土産をいただいた各社様に誌上をかりて厚く御礼申上げます。
有難うございました。(以上)
天高し　富士を仰いで　辰巳会
春寒や　富士の白雪　身にしみて
(三郎)

東京支部　新年例会出席者
平成四年一月二十三日(木)
築地スエヒロ
(五十音順、敬称略)

荒木　正雄
移川　中
　　　同伴
池谷　政雄
今村　三郎
植田　三男
上野　金治
請川　耿
加藤　福雄
国広　五郎
嶋内　桃枝
崇　眞足
　　　同伴
田代　よし子

立花　實
建部　清也
田辺　満寿子
栢山　寿郎
西尾　哲
西川　明子
西村　銕次郎
西村　正巳
益子　洋一
芦原　有一
安東　浄
長橋　忠男
計二十六名

東京支部春季例会

平成四年五月十四日(木)

益子焼で有名な益子参考館見学と笠間稲荷神社参拝

この日は生憎の曇天模様であるが低気圧が北海道北部へ向かう為関東地方の崩れは小さい、との予報である。
集合場所はいつもの旧丸ビル明治屋前で、新緑がしっとりとほんとに美しい。
幹事さんのご丁寧な出迎えに感謝しつつ乗車、八時五十分に出発する。参加者二十三名のところ栢山さんがネンザのため中島さんは急用が出来三名の方が欠席となった。
間もなく可愛いバスガイド嬢が今日の行程等の説明があり、バスは順調に走行する。続いてベテラン幹事の安東さんより好例のご挨拶と案内があり、思い出深い楽し

い旅行のためにお天気と、行き先行程に一段と気を使われると、にこやかに苦心談をユーモアーたっぷりに申し述べられた。又来年には金子直吉翁の五十年祭を神式により神戸で全国大会の際執り行なわれる旨のご紹介がありました。次に本日の例会に日商岩井株式会社，植田支部長よりご芳情を賜ったこと、又北海道の加地さんより心づくしのお土産を戴いたことのご披露があって、参加者の皆さん感謝した次第です。バスは首都高速より常磐自動車道に入り快調に走る。ガイド嬢が日本茶、コーヒー紅茶、コンブ茶のサービスだ。コンブ茶が格別に旨い。続いて幹事さんがお忙しい中お茶子にNIの爽やかなビールジュースが配られる。車内が一段と楽しい、くつろいだ雰囲気で賑やかになる。途中友部SAで小休止休調を整える。十時三十三分水戸IC着国道五〇号線を西進、車窓外の景気も水田はもう田植を完了しており流石に都塵は全くなく正に文字通りののどかな田園風景で眠の保養になり、車内のBGMが素晴らしい音質でリチャード・クレイダーマンの甘いピアノ曲を美しい爽やかな流しており、楽しく快い。音楽通の西村さんは大変すばらしい音楽だなぁーと感嘆せられる。十一時二十二分栃木県芳賀郡益子町に所在の益子参考館に到着同館は浜田庄司先生の記念館であったものを浜田先生の意志により世を去られた時世界の工芸員と共に生きつづけと参考館になったようです。

一号館の木造瓦葺平家建長屋門一一七・九六㎡新築一八七一年移築一九七六年の長屋門の陳列室に入り、人門国宝浜田庄司が蒐集した南九州産の茶壺、等を鑑賞・石蔵の浜田庄司館では明治時代の益子焼・浜田庄司作品、等を、同じく石蔵三号館の歴史館では縄文土器、古墳時代の鶏型埴輪・等、四号館の木造草葺平家建新築一八五〇年頃移築一九四三年の陳列館では庄司作の黒納錆流描大皿に沖縄の厨子甕、等、工房一四五㎡移築一九三九年登窯四一・四〇㎡築窯一九五四年、等を一同三三五五ゆっくりと巡覧して時間が経つのを忘れる程であった。

十二時二分益子参考館を後にして出発、益子町の地酒で『燦爛（サンラン）』の醸造元の外池酒造店に十二時十分に到着、早速造り酒蔵を見学係員より詳細に亘る、お米より出荷に至る迄の行程説明がありました。

左利きの方達の興味をそそる。燦爛はきらめき輝くさまできらめき輝く珠玉のような酒を目指して、厳選された酒造好適米を磨きあげてじっくり醸して造られる、との事、続いて売店きき酒コーナーに案内されアルコール十五・六度の生酒や、にごり酒を試飲してまろやかな味に納得か、皆さん二・三本お土産に買っておられる様で佳き食前酒をタイミング良く裁いたものである。十二時四十二分出発つかもと窯元の南風荘の広間の座敷に通され辰巳会の会席に皆さんゆったりとくつろいで、十三時より昼食、幹事さんが選ばれた心づくしの美味な和食を楽しく和やかに歓談しながら堪能、その后焼ものセンターに足を進める、広々とした処に見事に陳列された品々は見きれない程である。十四時十分笠間稲荷に向かって出発、ガイドさんのお話しによれば笠間稲荷は京都の伏見と佐賀の祐徳と共に三大稲荷と云われているとの事である。

笠間稲荷神社の鎮座地は茨木県笠間市笠間であり、御祭神は宇迦之御魂神で五穀をはじめ農牧、水産、養蚕等あらゆる殖産興業の守護神として、また火防の神として全国に尊崇せられ、江戸時代に『紋三郎稲荷』『胡桃下稲荷』として知られている。

十四時五十分バスは専用駐車場に到着一同元気で下車、重層入母屋造『萬世泰平門』と云われている櫻門を潜り境内に入り一同記念撮影して、鉄筋凝固土銅瓦葺三百㎡の宏壮な拝殿に進んで敬度に揺拝して気が落ち着いて神苑の樹令四百年の文化財天然記念物といわれる〝藤〟を観賞、丁度花は見頃でふさふさと垂れ下がった房、又葡萄の様に集って咲いているのがありしばし足をとどめ見惚れてしまう。

十五時二十二分笠間を出発反転帰路につく。十六時七分土浦北ICを通過近くに嘗つての海軍航空部隊の揺籃の地であった。元土浦航空隊があった所であり、感慨無量である。当地を第二の故郷として出撃し遂に還れなかった戦友達が碧空に、あの頃の若い儘（ママ）の姿で、舞い遊んでいるような、不思議な想いにとらわれます。只箭、国家安泰の為、唯々苦闘し、戦い抜いたであろう萬余の諸霊、安らかにあれよと、希い祈るばかりです。

今日は天気予報が当り幸に崩れず少々曇天気味であったので暑くもなく楽しい思い出の旅行が出来て何よりでした。東京近くになって、幹事さんの方のご丁寧なお別れのご挨拶があり、尚お土産品として栃木名産たまり漬ラッキョウを戴きました。本日の例会に幹事さんのお骨折りに一同感謝の気持ちで一杯でした。

バスは運良く渋滞もなく順調に走り定刻の十七時三十分に東京駅丸の内側北口に無事帰着、皆さん又秋の例会に元気で再会を約して帰宅の途につかれました。

（S・I記）

春季例会旅行に参加して

加藤　武城

生酒の一壺を買いて楽しめり
曲がり家の森閑として歯朶の花
陶工場今日は休みて五月晴
登り窯休みても温かさのこりをり
卯の花の咲きてろくろ休みなり
杉の毬店頭に吊り新酒売る
世界より珍品蒐夏に籠る
下手ながら利き酒の舌もてる人
らっきょうを賜り朝な食進む
笠間稲荷の赤・藤房のむらさきに
どんよりと青葉若葉の旅一と日
田植すみ先づ一と休み農家かな

終

辰巳会東京支部　春の例会参加者

平成4年5月14日㈭
於・益子　窯元　笠間稲荷

（五十音順、敬称略）

芦原有一	田辺満寿子		
安東浄柘	山寿郎		
今村三郎	建部清也		
同伴	同伴		
植田三男	立花実		
請川耿	同伴		
黄木卓也	中島英吉		
加地彦太郎	長橋忠男		
加藤福雄	西川明子		
国広五郎	西村銕次郎		
嶋内桃枝	田横道洋子		
代ヨシ子	計二十三名		

◆原稿募集

内容　随想　短歌　排句　詩
写真　鈴木往時の思い出　近況などを

必ず原稿用紙に縦書で
四百字詰五枚程度

締切　平成五年五月末日

送先　神戸市中央区磯辺通一丁目一ノ三九
太陽鉱工株式会社内
「たつみ」編集部宛